

令和7年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	78	学 校 名	浜松工業高等学校（定）	記 載 者	鮎京 正憲
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	ものづくりの過程で創造力や問題解決能力を育成する。	「実験実習に興味を持って取り組むことができた」と回答する生徒の割合 90%以上	B	B	合同文化祭での課題研究発表は、生徒にとって大きな刺激となり評価できる。実験実習への興味・関心は概ね高く、教員の指導も肯定的に受け止められている。一方で、昨年度より数値が低下している点や管理職評価がBである理由については課題を明確にする必要がある。今後は地域課題との結び付きなど社会との接点を強化し、より実践的で主体的な学びへ発展させてほしい。
イ	外部機関と連携した就労支援を在籍時より行い、社会での有用感を育て勤労の意欲と社会に貢献できる実感を持たせる。	「今年 90 日以上働くことができた」と回答する生徒の割合 60%以上	A	A	企業説明会やマッチング事業の実施により、生徒の進路意識向上と長期就労の実現につながっている点は高く評価できる。外部機関との連携体制も充実している。一方、90 日未満の生徒や未就労生徒への支援強化が課題であり、教員間での協議と個別対話の充実が求められる。
ウ	生徒が資格等を意欲的に取得する体制づくりを構築する。	計算技術検定の合格者 25 人以上（延べ人数） 情報技術検定の合格者 10 人以上（延べ人数）	A	A	各種検定の合格者増加は、生徒の努力と教員の指導の成果であり高く評価できる。検定への挑戦は達成感や意欲向上につながっている。今後も習熟度に応じたきめ細かな指導を継続するとともに、必要に応じて補習等の体制整備も検討してほしい。
エ	あいさつの励行やほめる声かけにより生徒が自己肯定感を高めるとともに学校が安全安心な場所として認識することで愛校心を育む。	「あいさつがしっかりできた」と回答する生徒の割合 90%以上	A	A	挨拶を基盤とした人間関係づくりは良好に進んでおり、生徒が主体的に挨拶する姿勢が育っている点は評価できる。学校全体に前向きな雰囲気が醸成されている。今後も社会性の育成を意識し、継続的に取り組んでほしい。
		SC、SSW の活用 専門的な立場からの指導を仰ぐ通級指導の実施	A	A	専門的知見を活用し、生徒理解と支援方法の共有が進んだ点は大きな成果である。外国籍生徒を含む多様な生徒への対応力が向上している。今後も専門家との連携を継続し、「すべての生徒をすべての教員で支える」体制を強化してほしい。

		「大きな声で校歌を歌えた」と回答する生徒の割合 60%以上	B	B	式典での取組は評価できるが、数値目標としての妥当性や評価項目化については検討の余地がある。他学年への波及や一体感醸成に向けた継続的取組が望まれる。
		保健日より発行年間 10 回以上	A	A	年間発行回数の達成およびデジタル配信への移行は高く評価できる。業務効率化と情報伝達の充実を両立している。今後も継続を期待する。
		授業中や放課後の活動において重大事故ゼロ	A	A	複数教員による指導体制のもと、重大事故ゼロを達成した点は評価できる。「安全はすべてに優先する」という意識のさらなる定着を図ってほしい。
オ	自分の命は自分で守る意識の高揚と交通マナーの徹底を図る。	交通安全に関する事業年 4 回、防災に関する事業年 3 回、薬学講座年 1 日の開催。重大な交通事故ゼロ。	B	B	安全意識向上の取組は重要であるが、バイク事故発生を踏まえ、より一層の指導強化が求められる。法改正への対応、ヘルメット着用の徹底、自発的な安全意識の醸成が今後の課題である。
カ	学校ホームページ及び SNS を利用して効果的な広報活動を展開する。	中学生の学校見学 30 人以上、SNS での情報発信年 50 回以上	A	A	SNS を活用した積極的な情報発信は高く評価できる。定時制の日常や実習風景の発信により中学生や地域への理解が深まっている。今後も継続・発展させてほしい。
キ	教育活動が円滑に展開できる教育環境・職場環境の整備を行う。	夏季休暇 100% 取得 時間外勤務前年度比 90% の実現 服務事故 0 件	A	A	働きやすい環境整備が進み、教育活動が円滑に展開されている。今後も業務効率化と組織的支援体制を維持し、良好な職場環境を継続してほしい。
ク	生徒の意欲を引き出す指導方法の確立を図る。	ICT 機器を活用して教育活動を展開する教職員 100% 学校に「信頼できる先生がいる」と回答する生徒 80% 以上	A	A	ICT 活用の推進と発達支持的生徒指導により、生徒との信頼関係が構築されている点は高く評価できる。今後も信頼を基盤とした主体的学びの支援を継続してほしい。